

平成 30 年 5 月 25 日
気 象 庁

第 143 回気象記念日について

～ 「気象業務はいま 2018」を刊行します～

平成 30 年 6 月 1 日（金）は、第 143 回気象記念日です。気象庁では、次の記念行事等を行います。

1. 第 143 回気象記念日式典を次のとおり行います。

日時 平成 30 年 6 月 1 日（金）15 時 00 分～15 時 50 分
場所 気象庁講堂

式典において、気象業務に功績のあった方への表彰を行います（表彰受賞者は別紙 1 のとおり）。式典は報道機関に公開します（会場内での撮影が可能です）。

2. 「気象業務はいま 2018」を刊行します。概要は別紙 2 - 1、2 - 2 のとおりです。

気象記念日は、明治 8 年（1875 年）6 月 1 日に気象庁の前身である東京気象台において気象と地震の観測を開始したことを記念して、昭和 17 年（1942 年）に制定されました。

問合せ先：電話 03-3212-8341・FAX 03-3201-0682

式典関係	気象庁総務部総務課	飯野（内線 2110）
表彰関係	気象庁総務部人事課	西澤（内線 2133）
刊行関係	気象庁総務部企画課	河里（内線 2261）

平成30年6月1日付

第143回「気象記念日」気象庁表彰受賞者名簿

【国土交通大臣表彰】

委託観測所（地域・個人）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり沢内地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	中村 千一

委託観測所（航空）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり多良間航空気象観測所の委託観測業務を遂行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	多良間村

船舶（気象通報）

気象業務に対する深い理解のもとに多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	エム・オー・エル・エルエヌジー輸送株式会社	アル ビダ

（部内職員）

一般功績

気象防災に関する先進的取組により住民の安全確保及び気象庁の防災施策の普及啓発に顕著な成果をあげた功績

番号	被表彰者名
1	秋田地方気象台職員一同

【気象庁長官表彰】

一般功績

多年にわたり火山知識及び防災知識等の普及・啓発活動を行い火山防災意識の高揚に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	磐梯山噴火記念館館長 佐藤 公

多年にわたり創意工夫を凝らした気象・防災教育を実施し学校教育現場における気象・防災知識の普及啓発に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	沖縄県立コザ高等学校教諭 永井 秀行

地震防災対策強化地域判定会及び南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会において委員として多年にわたり地震予知情報業務の推進に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	元東京大学地震研究所教授 (現神奈川県温泉地学研究所長) 加藤 照之

多年にわたり異常気象分析検討会会長として気候情報の社会に向けた発信に尽力するとともに防災意識啓発および気候・気象情報の利活用促進など多様な気象業務に対する社会的理解の促進に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	東京大学大気海洋研究所副所長・教授 気候システム研究系系長 木本 昌秀

気象データの利便性向上のため専門的な知見を継続的に提供するとともにその活用方法について積極的に情報発信し気象データの高度化及び利活用推進に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	先端IT活用推進コンソーシアム

日本版改良藤田スケールの策定により我が国で発生した竜巻等突風の強さの迅速かつ的確な公表の実現に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	日本版竜巻スケールおよびその評価手法に関する研究グループ

委託観測所（地域・個人）

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者名
1	えんがる 遠軽地域気象観測所	斎野 恒範
2	まるもり 丸森地域気象観測所	齋 照子
3	かっこんだ 葛根田地域気象観測所	馬坂 ひとみ

委託観測所（地域・団体）

多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に献身的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	観測所名	被表彰者名
1	しらぬか 白糠地域気象観測所	白糠町長
2	はまおにしべつ 浜鬼志別地域気象観測所	東宗谷農業協同組合猿払支所
3	なかきねうす 中杵白地域気象観測所	ひだか東農業協同組合組合長
4	あかいがわ 赤井川地域気象観測所	北後志消防組合赤井川支署
5	かみふらの 上富良野地域気象観測所	富良野広域連合消防本部
6	ただみ 只見地域気象観測所	只見町長
7	たていわ 館岩地域気象観測所	南会津町
8	ながぬま 長沼地域気象観測所	江花川沿岸土地改良区
9	ひのえまた 檜枝岐地域気象観測所	檜枝岐村
10	おばなざわ 尾花沢地域気象観測所	尾花沢市消防本部
11	ごしょがわら 五所川原地域気象観測所	五所川原市立学校給食センター
12	おぐに 小国地域気象観測所	長岡市教育委員会教育長
13	まつだい 松代地域気象観測所	十日町市長
14	はくさんしらみね 白山白峰地域気象観測所	白山市役所白峰市民サービスセンター
15	ほこた 鉾田地域気象観測所	鹿行広域事務組合消防本部
16	かみよしだ 上吉田地域気象観測所	秩父市長

17	なすこうげん 那須高原地域気象観測所	那須町長
18	かつやま 勝山地域気象観測所	勝山市長
19	くさつ 草津地域気象観測所	草津町長
20	やまなか 山中地域気象観測所	富士五湖広域行政事務組合富士五湖消防本部
21	さかはた 坂畑地域気象観測所	君津市立亀山中学校
22	はぎわら 萩原地域気象観測所	NPO法人萩原スポーツクラブ
23	だいご 大子地域気象観測所	大子町消防本部消防署長
24	みなみいせ 南伊勢地域気象観測所	志摩広域消防組合消防長
25	ひがしおうみ 東近江地域気象観測所	東近江市長
26	くま 久万地域気象観測所	愛媛県中予地方局久万高原農業指導班
27	みしょう 御荘地域気象観測所	愛媛県立南宇和高等学校
28	ひきがわ 日置川地域気象観測所	白浜町立三舞中学校
29	ますだ 益田地域気象観測所	益田広域消防本部
30	あま 海土地域気象観測所	海士町役場
31	いまづ 今津地域気象観測所	今津中学校
32	やさか 弥栄地域気象観測所	浜田市役所弥栄支所
33	さんだ 三田地域気象観測所	三田市消防本部
34	やつしろ 八代地域気象観測所	独立行政法人国立高等専門学校機構 熊本高等専門学校八代キャンパス
35	しのぶ 篠生地域気象観測所	J A 山口中央長門峡支所

船舶（気象通報）

多年にわたり海上気象の観測通報を確実に励行し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	エム・オー・エル・エルエヌジー輸送株式会社	エネルギー ナビゲーター
2	NYK SHIPMANAGEMENT PTE LTD	TAHAROA DESTINY
3	エム・オー・エル・シップマネージメント株式会社	ENERGIA CENTAURUS

船舶（表層水温）

多年にわたり海洋の表層水温の観測通報に積極的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	日本海洋事業株式会社	みらい
2	鹿児島県水産技術開発センター	くろしお

漁船

海上気象の観測通報に積極的に協力し気象業務の発展に寄与した功績

番号	被表彰者名	
	所属	船名
1	山田水産工業株式会社	第三邦憲丸
2	旭漁業株式会社	第八旭丸
3	旭漁業株式会社	第十一旭丸
4	枕崎市漁業協同組合	第三協洋丸
5	鹿児島県教育委員会	薩摩青雲丸
6	昭徳水産株式会社	第十八昭徳丸

（部内職員）

一般功績

雨による水害危険度評価技術を開発し避難勧告等の発令等判断支援に寄与した功績

番号	被表彰者名
1	気象庁予報部予報課気象防災推進室 水害危険度評価技術開発チーム

「気象業務はいま 2018」の刊行について

気象庁では、気象庁の取組の現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年6月1日の気象記念日にあわせて刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2018」の主な内容は次の通りです。構成については別紙 2 - 2 をご覧ください。

特集「地域における気象防災の強化に向けた取組」

気象庁の取組の中で特にスポットを当て内容を詳細に紹介するコーナーです。今回は、昨年8月にとりまとめられた「地域における気象防災業務のあり方検討会」報告書において示された、地域における気象防災業務の強化について紹介しています。

トピックス

気象庁の最新の取組を紹介するコーナーで、主な自然災害への対応、提供開始から10年を迎えた緊急地震速報、南海トラフ地震に関連する情報の運用開始、12年ぶりに発生した黒潮大蛇行、気象ビジネス推進コンソーシアムを中心とする気象情報のさらなる活用に向けた取組などを紹介しています。

本編

- 第1部「国民の安全・安心を支える気象情報」
- 第2部「気象業務を高度化するための研究・技術開発」
- 第3部「気象業務の国際協力と世界への貢献」
- 第4部「最近の気象・地震・火山・地球環境」

「気象業務はいま 2018」は、6月1日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

「気象業務はいま 2018」の構成

特集 地域における気象防災の強化に向けた取組

- 1 はじめに
- 2 地域における気象防災の強化に向けた取組
 - (1) 地域における気象防災業務の方向性
 - (2) 具体的に推進する取組
- 3 おわりに

トピックス 自然のシグナルをいち早く捉え、迅速にお伝えするために

- 1 平成 30 年 1 月 23 日に発生した草津白根山（本白根山）の噴火とその対応
- 2 南海トラフ地震に関連する情報の運用開始
- 3 平成 29 年 7 月九州北部豪雨における「洪水警報の危険度分布」
- 4 気象レーダーの観測機能強化～二重偏波レーダーの導入～
- 5 緊急地震速報の提供開始から 10 年
- 6 40 年にわたり地球を見つめる「ひまわり」

トピックス 長期の監視から地球の今を知り、将来に備えるために

- 1 気候変動の影響への適応に関する気象庁の取組
- 2 12 年ぶりの黒潮大蛇行
- 3 太陽フレアによる地磁気変化がもたらす社会への影響と情報提供
- 4 小笠原諸島における気象業務 50 年

トピックス 気象情報の活用により、より豊かな暮らしを実現するために

- 1 気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)セミナー等の開催
- 2 お天気データで未来を描くアイデアコンテストの開催

トピックス 最新の科学技術を導入し、気象業務の健全な発達を図るために

- 1 オールジャパンでの数値予報モデル開発
- 2 海上の水蒸気観測による豪雨予測精度向上
- 3 長周期地震動の実証実験

第 1 部 国民の安全・安心を支える気象業務

- 序章 はじめに
- 1 章 気象の監視・予測
 - 2 章 地震・津波と火山の監視・予測
 - 3 章 地球環境の監視・予測
 - 4 章 交通の安全などのための取組
 - 5 章 産業の興隆などのための取組
 - 6 章 地域の防災力向上への取組

第 2 部 気象業務を高度化するための研究・技術開発

- 1 章 大気・海洋に関する数値予報技術
- 2 章 新しい観測・予測技術
- 3 章 地震・津波、火山に関する技術開発
- 4 章 大学や研究機関と連携した研究・技術開発

第3部 気象業務の国際協力と世界への貢献

- 1章 世界気象機関（WMO）を通じた世界への貢献
- 2章 国連教育科学文化機関（UNESCO）を通じた世界への貢献
- 3章 国際民間航空機関（ICAO）を通じた世界への貢献
- 4章 国際的な技術開発・研究計画との連携
- 5章 開発途上国への人材育成支援・技術協力について

第4部 最近の気象・地震・火山・地球環境

- 1章 気象災害、台風など
- 2章 天候、異常気象など
- 3章 地震活動
- 4章 火山活動
- 5章 黄砂、紫外線など

参考資料

全国気象官署等一覧、用語集、索引